

| | | |
|---|-------------------------------|------------|
|  | センターからのお知らせ | 1P |
| | 植物同好会観察活動報告・計画 | 2～3P |
| | パートナークリーンアップ報告・計画 | 4P |
| | 身近な水環境の全国一斉調査 | 4～5P |
| | 図書活動報告・計画 | 6P |
| | 私の細道 (29) 平泉 コラム、職員紹介、編集後記 | 7～8P 8P |

パートナー情報誌 KASUMI 第19号 (通巻57号) 発行日 平成31年4月30日

センターからのお知らせ

□「環境月間フェスティバル」

6月1日(土曜日) 9時30分から15時まで(予定)

今年の環境月間フェスティバルは、6月1日(土曜日)に開催することが決定いたしました。今年も各種体験・工作ブースを実施する予定です。当日はパートナーの皆様にご協力いただき、環境月間フェスティバルを盛り上げていきたいと考えております。皆様御協力の程、よろしくお願いいたします。

(センター 野澤)

□「環境学習フェスタ」開催報告

平成31年2月16日(土曜日)、「霞ヶ浦環境科学センター環境学習フェスタ」を開催しました。当日は晴れて気温も上がりイベント日和でした。イベント全体で1,550名の方に御来場いただきました。メインプログラムの「環境学習発表会」では、第17回世界湖沼会議に参加した学校・団体併せて23グループの皆さんに、日頃の学習の成果を発表していただき、来場した方たちの環境への関心が高まる契機となったことと思います。

イベントの運営にご協力いただきましたパートナーの皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

(センター 野澤)

□「パートナー全体研修・交流会」実施報告

2月19日(火曜日)に霞ヶ浦環境科学センター多目的ホールで「パートナー全体研修・交流会」を開催しました。

午前中は、土浦市消防本部の救命救急士の方々を講師として、救命講習会を実施しました。参加者の皆さんは講師に質問をしながら、もしものことがあった場合に救急隊が現場に到着するまでの応急手当を積極的に学ぶことができました。また、今後も継続的に講習を受講したいとの声もいただくことができました。今回参加していただいた方も参加できなかった方も来年度実施の際にはぜひ参加していただきたいと思っております。

午後からは、交流会を実施しました。パートナー活動報告として、パートナー霞ヶ浦クリーン Up (尾形さん)、植物定点観察 (有吉さん)、身近な水環境の全国一斉調査 (浅野さん)、新聞スクラップ読み聞かせ活動 (高石さん)、魚類等定点調査 (資料のみ) の活動を報告していただきました。報告後は、センター長や環境活動推進課長との意見交換や、そのほか職員が各テーブルに入りパートナーと職員の意見交換を行い、お互いの考えや思いを交わすことができました。

当日は13人のパートナーの皆さんに参加していただき、今後の活動の参考になる大変有意義な会となりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

(センター 岡村)



【救命講習会の様子】



【交流会集合写真】

「霞ヶ浦湖岸植物同好会」平成30年度活動報告と2019年度活動計画

＜平成30年度後期活動報告＞

A区再生地南池：水深が浅くなりヒメガマの群生が拡大。E区低地の樹木伐採による植生の変化が課題。

| 月/日 | 観察概況 観察区：ABEFGHKL (EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧種、特外:特定外来生物) |
|--------------|---|
| H30 10/10 | 台風24号による潮風の影響で、ハスの葉が枯れた蓮田では、青紫色の花を付けたミズアオイ(国,県 NT)が際立っている。湖岸低地はサクラタデやアキノウナギツカミ等イヌタデ属の植物で賑やかだ。第17回世界湖沼会議の見学地H区再生地に北米原産 ホソバヒメミソハギ と希少種 カンエンガヤツリ (VU,県 NT、サンショウモ(VU 県 EN))が出現した。 |
| 11/14 | 立冬を過ぎた小春日和の湖岸でヨシやオギの果穂が熟し輝いていた。ノイバラ、シロダモ、マンリョウの実が赤くなりコセンダングサ、カナムグラなども来季に向け種子を作っている。H区再生地に出現した タコノアシ (国,県:準絶滅危惧種 NT)の果序が赤くなり、コガマ、ヌマガヤツリ、ゴキズルの実が熟し種子を散布していた。 |
| 12/12 | 師走の湖岸でマコモ、ガマ、ヨシ、オギが枯れ立茎が並ぶ。水鳥が集まるH区再生地で高茎のガマ類や茶褐色のヌマガヤツリ、緑褐色の カンエンガヤツリ (国 VU,県 NT)が果実を散布中。カワヤナギ、ジャヤナギは葉を残し、タチヤナギは黄葉、マルバヤナギは落葉した。E区で赤い実を付けるクコなど多くの樹木が伐採された。 |
| H31 1/9 | 冬景色の湖岸、堤防南法面ではメマツヨイグサやオオジシバリが赤く染めた葉を広げ、ヒメオドリコソウやオオイヌノフグリが早々と花を付けていた。セイタカヨシを含めてほとんどの草木が刈り取られたE区でヤツデが大きな果序を付けている。1部に薄氷が張ったH区平場沿いの水面で ヒメウキクサ (新出種)がアイオオアカウキクサと混生していた。 |
| 2/13 | 厳寒の湖岸法面でノゲシやホトケノザが花をつけ、スイバやアメリカフウロは赤く染めた葉を、ノヂシャやヘラオオバコはロゼット葉を広げている。H区の法面では新出種の欧州原産 モミジバヒメオドリコソウ が開花しており、低地でカワヤナギの芽鱗が外れ銀色の蕾が顔を出していた。G区のマルバヤナギの下でノウルシ(国県 NT)が赤い芽を出した。 |
| 3/13 | 早春の暖かい堤防法面でスギナの胞子茎である“つくし(土筆)”が出て コハコベ、ナズナ、オオイヌノフグリ等も花盛り、A区でトウダイグサが開花した。再生地ではヨシやタコノアシが枯れ茎の根元で新芽を出し、セリの若葉の近くで誤食の危険があるドクゼリの新芽が見られた。ヤナギ類の蕾や花芽が膨らみ近々湖岸も賑やかになりそうだ。 |



10月H区**ホソバヒメミソハギ**(ミソハギ科) 北米原産1年草。淡紅紫色の4弁花。



11月H区**タコノアシ**(タコノアシ科)多年草 紅く染まった果実が茹蛸のように見える。



12月H区**カンエンガヤツリ**(カヤツリグサ科) 再生工事による攪乱で埋土種子が発芽。



1月H区**ヒメウキクサ**(サトイモ科)常緑多年草 熱帯アジア原産。葉状体(茎)の裏は赤紫色。



2月H区**モミジバヒメオドリコソウ**(シソ科)

欧州原産。ヒメオドリコソウより葉の切込が深い。



3月H区**スギナ**(シダ植物トクサ科)

地下茎から土筆の後に杉菜が出る。

<2019年度活動計画>

当同好会は、環境学習推進活動の一環として主にセンター主催の「自然観察会(植物)」に於ける補助活動及び「いきものにわ」の整備・観察学習の補助活動とパートナーの自主企画活動としての「湖岸植物定点観察」を行う。

自然観察会(植物)は霞ヶ浦流域内の植物観察を通して霞ヶ浦の水質浄化に関心を深めてもらう目的で、特定月の原則第3土曜日に実施される。

湖岸植物定点観察はセンター下の湖岸(下図)において、環境の変化が植物相に及ぼす影響を見るため原則毎月第2水曜日に実施する。湖岸の代表種、絶滅危惧種、特定外来生物などは指定種として年間を通して継続観察する。またその他の植物についても特徴がある花・実・冬芽などを適時に観察・記録する。毎月観察の概要と共に旬の植物写真に説明を付け2階展示コーナーに掲示する。



自然観察会に於ける補助活動
H30.9.2H 区(沖宿自然再生地)

地区別観察のポイントと指定種等



A 区: 北新池オニナルコスゲ・南小池のサジオモダカ(県準)の生育状況
B 区: 自然再生事業・火入れ実施後の植生変化、タコノアシ(国県準)の生育、ミズヒマワリ(特外)等の増殖状況。



再生地に出現したカンエンガヤツリ



H 区(H27-29 再生事業): 重点観察区悉皆調査 ヤナギトラノオ(県Ⅱ)・ジョウロウスゲ(国Ⅱ県準)・ミクリ(国県準)・ノアズキ(県準)等希少種を含む以前からあった種の生育範囲の変化、再生後出現したカンエンガヤツリ(国Ⅱ県準)・サンショウモ(国Ⅱ県ⅠB)・タコノアシ(国県準)・トチカガミ(国準Ⅱ)・カワヂシャ(国県準)・ウスゲチヨウジタデ(国県準)・ミズアオイ(国県準)等希少種の増減や特定外来生物オオフサモ・ミズヒマワリ・アレチウリの繁殖状況

I 区追加調査(同再生事業浅水域作出): 期待される沈水・浮葉植物の出現確認

EF 区: 広範囲の樹木やセイタカヨシ(県準)伐採による植生変化、アレチウリ(特外) 湖岸植物定点観察の年間予定

G 区: ノウルシ(国県準)・ジョウロウスゲ(国Ⅱ県準)等生育状況

KL 区: アサマスゲ(国準ⅠB)・オグルマ・タンキリマメ(県Ⅱ)等の生育状況

(日程) 9:00 集合(冬季は9:30)・準備(記録用紙,カメラ他)

9:30~12:00 現地(H区: 悉皆調査 AB・IEFG・KL区指定種等観察)

12:15~昼食 12:45~13:15 新出種等報告 13:15~15:00 記録整理

自然観察会(植物)年間予定

| 月・日 | テーマ | 場所 |
|--------|--------------|---------------|
| (5・25) | 河畔林の植物観察と遊水地 | 下妻市, 筑西市: 小貝川 |
| (9・) | 水草の観察 | 余郷入 |
| (10・) | 里山の植物観察 | 穴塚大池 |
| (11・) | 秋のスタジイ林 | 椎尾山薬王院 |

| 活動月-日 | 関連活動 |
|-----------|-------------|
| 2019-4-10 | 春季 9:00 集合 |
| 5-8 | '' |
| 6-12 | 夏季 9:00 集合 |
| 7-10 | '' |
| 8-7 | '' (お盆で繰上げ) |
| 9-11 | 秋季 9:00 集合 |
| 10-9 | '' |
| 11-13 | '' |
| 12-11 | 冬季 9:30 集合 |
| 2020-1-8 | '' |
| 2-12 | '' |
| 3-11 | 春季 9:00 集合 |

「いきものにわ」整備活動の予定

原則、毎月第4水曜日 10:00~11:30 (12月は第3水曜日の18日)

作業内容: 除草、間引き、移植、コンテナ・プランターの整理、名札整備等

(パートナー 有吉)

「パートナー霞ヶ浦クリーンUP」平成30年度報告と2019年度活動計画

平成23年の活動開始から丸7年になりますが、平成最後の活動は台風で1回の中止はありましたが、概ね計画通り活動することができましたので、活動結果を報告致します。

パートナーにできる身近な活動として「きれいな霞ヶ浦」をテーマに霞ヶ浦湖岸（2.3km）のゴミ拾いをセンターのご協力も得ながら、毎月1回の頻度で実施しています。

限られた区域ですが、「ゴミの捨てづらい環境をつくる」を合言葉にパートナー有志で活動しています。ゴミの量も年々減少傾向でメンバーの励みとなっています。

湖岸の土手もサイクリングロードとして整備され、県内外から訪れる方も増加傾向にあり、一層の環境への配慮が問われています。ただ、以前より活動に対しての関心の高まりもあり、皆さんから「ご苦労さま、ゴミは持ち帰るよ」「ゴミ袋を持参したよ」などの声も聞かれ、嬉しい思いです。

昨年10月には第17回世界湖沼会議も開催され、これを機に更に活動の輪が広がるよう、多くの皆さんと連携できればと考えています。

（活動概要）

10月に台風の影響で1回中止しました。ゴミの量は僅かですが、減少傾向です。

特記事項として、湖岸の再生事業工事のため、活動対象区域内外で、景観が激変していますので、植生を含めた環境変化にも充分注視したいと思います。

（活動実績） 平成30年4月～平成31年3月まで

- ・回収総量：44袋（対前年比：6.4%減）・回収の内訳：可燃→27袋 不燃→17袋
- ・参加者延人員：50人

*台風等で漂着するゴミを見ると、霞ヶ浦全体としてのゴミの量は、まだまだ多いと思われます。霞ヶ浦流域の一人ひとりの環境への配慮が引き続き必要です。

（2019年度活動計画）

- ・活動日は毎月1回、年12回

偶数月：第3日曜日→4/21・6/16・8/18・10/20・12/15・2020年、2/16

奇数月：第3金曜日→5/17・7/19・9/20・11/15・2020年、1/17・3/20

- ・時間：9時～11時頃、実施区域、作業は昨年に準じます。

今後とも、パートナー有志による活動を継続したいと思います。皆さまのご参加をお待ちしています。

（パートナー 尾形）

第15回身近な水環境の全国一斉調査結果報告及び第16回調査計画

活動のねらい

本活動は平成25年6月の「第10回身近な水環境の全国一斉調査」から続けて参加している活動です。今年度（平成30年度）で連続6回参加しています。活動のねらいは次のとおりです。

- 1、調査に参加した人たちとの連携を深めることができる。
- 2、統一的なマニュアルに基づいて河川流域の多くの人たちが調査するので、面的につながりのある結果が得られる。との背景からパートナー有志が参加しています。

○調査の概要

調査日及び参加者数：平成30年6月3日（日）7名（パートナー梅田、小松、栗原、西條、杉山、目次、浅野）

調査内容、方法：統一調査マニュアルに基づく気温、水温、試水水温、パックテストによるCOD測定、透視度、電気伝導度を調査しました。この他、特記事項として水辺の状況・流れ・濁り・散

乱ごみ、川の変化について意見（今と昔）も実施しました。

なお、平成 30 年（第 15 回）は過去 5 年連続で同じ調査地点での調査でしたので、新たに 4 地点を選定し調査しました。

調査地点：平成 25 年：恋瀬川（恋瀬橋）、鉾田川（旭橋）

平成 26 年：恋瀬川（恋瀬橋）、鉾田川（旭橋）、桜川（水神橋）

平成 27 年：恋瀬川（恋瀬橋）、鉾田川（旭橋）、桜川（水神橋）、花室川（精進橋）

平成 28 年：恋瀬川（恋瀬橋）、鉾田川（旭橋）、桜川（水神橋）、花室川（精進橋）

平成 29 年：恋瀬川（恋瀬橋）、鉾田川（旭橋）、桜川（水神橋）、花室川（精進橋）

平成 30 年：桜川（禊橋）、清明川（阿見橋）、小野川（下根大橋）、巴川（新巴川橋）

○調査結果

| 調査地点 | 調査年月日 | 天候 | 気温(°C) | 試水水温(°C) | 透視度(cm) | EC(mS/m) | T-N(mg/l) | T-P(mg/l) | COD 測定値 (mg/l) | | |
|---------------|---------|----|--------|----------|---------|----------|-----------|-----------|----------------|------|------|
| | | | | | | | | | 1回目 | 2回目 | 3回目 |
| 桜川 (禊橋) | H30.6.3 | 晴 | 28 | 26 | 57 | 22.3 | — | — | 8 以上 | 8 以上 | 8 以上 |
| 清明川 (阿見橋) | H30.6.3 | 晴 | 30 | 23 | 100 以上 | 34.0 | — | — | 5 | 5 | 5 |
| 小野川 (下根大橋) | H30.6.3 | 晴 | 26 | 20 | 31 | 25.0 | — | — | 8 | 8 | 7 |
| 巴川 (新巴川橋) | H30.6.3 | 晴 | 30.5 | 24 | 45 | 26.5 | — | — | 7 | 8 | 7 |

※EC：電気伝導度を表す、数値が低いほど良い。T-N：全窒素、T-P：全リンを表す。COD：水の汚れ具合を表わし、数値が低いほど良い。

特記事項

桜川（禊橋）～川は濁っていたが、ゴミほとんど無し。水田へ水を供給するために川を堰き止めていた。

清明川（阿見橋）～外観清澄、流れも有り。水深数十cmで、水底には水草あり。

小野川（下根大橋）～付近は草木繁茂し緑濃し。流れゆるやかで土色をしており、泥臭い臭いがした。

巴川（新巴川橋）～流れあり、一見きれいに見えたが、濁っている。風少しあり。

○活動状況の写真



清明川（阿見橋）H30.6.3



小野川（下根大橋）H30.6.3



巴川（新巴川橋）H30.6.3

第 16 回身近な水環境の全国一斉調査計画

第 16 回身近な水環境の全国一斉調査も第 15 回全国一斉調査と同じ調査内容で計画、事務局へ参加申込みをしております。パートナー皆様の参加をお待ちしております。実施予定日 2019 年 6 月 2 日（日）

（パートナー 浅野）

平成 30 年度図書活動報告及び 2019 年度の活動計画

1、文献資料室の図書紹介文の作成

文献資料室の図書を多くの利用者に知ってもらい、利用促進を図るため、新規購入図書を中心にパートナー自ら図書を読み紹介文を作成しています。

活動は第 2、第 4 金曜日です。平成 30 年度は 226 冊の新規購入図書（寄贈図書を含む）の中から 27 冊の紹介文を作成しました。2019 年度も同じ内容の活動予定です。センター 2 階交流サロンに「図書紹介一覧」が有りますのでどうぞご覧下さい。

（パートナー 浅野 パートナー 高石）



図書紹介

2、読み聞かせ活動

文献資料室所蔵の絵本、紙芝居等の中から自然保護や水質汚染、地球温暖化などの環境問題を題材にしたものを中心に読み聞かせ実演をしています。

活動は原則センターイベント開催月と冬季を除く第 4 土曜日で平成 30 年度は 8 回実演しました。聞いてくれた人は（のべ）56 名で、こども 28 名 おとな 28 名でした。お客さんにはパートナー手作りの「しおり」をプレゼントしています。

また、お客さんの増加を目指してパートナーによるマジックの実演も取り入れております。2019 年度も同じ内容で活動予定です。

（パートナー 浅野）



読み聞かせ活動

3、新聞スクラップの作成

[活動日]毎月 2 回（第 2、4 週の金曜日）

[活動内容]朝日、毎日、読売、日本経済、茨城の 5 新聞を対象とし、下記テーマに基づいて記事をピックアップ、編集、ファイリングしています。

[テーマ]①霞ヶ浦流域における河川、湖沼などに関する情報に限定する。

②生物多様性、地球温暖化など環境問題をテーマとした新聞社説、論説はすべてクリップする。2019 年度も同じ内容で活動予定です。

（パートナー 内田）



新聞スクラップ活動

私の細道（その29 奥の細道・平泉）

曾良の随行日記によると、芭蕉らは、元禄2年（1689）5月12日（陽暦6月28日）登米を立ち、合羽も通るほどの雨の中を、夕方、一関に着き宿に入った。翌日は天気良く、一日、平泉を楽しんでいる。高館・衣川・衣関・中尊寺・金堂・泉城・桜川・桜山・秀衡屋敷、更には、月山神社・白山神社・無量光院などを散策したようである。

平泉といえば、11～12世紀、砂金や交易から得た富を背景に奥州の辺境の地に王国を築き上げた藤原三代として知られ、特に、三代秀衡が悲劇の武将源義経を庇護したことから、その死後、滅亡に至ると云うドラマティックな舞台として、日本人の心に深い感傷の念を与えている。芭蕉もこの地に感銘を受けた一人であり、義経の横死した高館と、絢爛たる金堂を特筆している。

私は平泉を2度訪れた。一度目は平成25年（2013）5月1日。2泊3日のバス東北ツアーに妻と一緒に参加したもので、平泉・十和田湖・弘前・角館などの桜を見て回る観光の時であった。仙台までは新幹線で東北を観光バスで回った。残念ながらこの年は春寒で、桜がほとんど咲いてはいなかった。第一日目が世界文化遺産となった平泉であり、中尊寺がコースに組まれていた。この旅の宿泊先、安比高原の宿でなんとなんと、当霞ヶ浦環境科学センターパートナーの尾形さん夫妻に出会ったのである。尾形さん達は別のグループではあったが、その日は中尊寺を見学してのコースであった。尾形さんは、私が当センターのパートナーに参加した当初、先輩として指導してくださった。たまたま、私が「おくのほそ道」の深川から草加までの行程を芭蕉旅立ちの日に合わせて妻となぞり、旅行記風に書いたものを尾形さんに見せたところ、これを本誌「香澄」に投稿するよう勧められた。「私の細道」として3回にわたって掲載して頂いたが、その後、続きはと催促され、とうとう29回まで続くことになった次第である。尾形さんには感謝している。この旅でバツリ出会うこと自体奇遇ではあったが、中尊寺絡みでの邂逅にはある意味を感じた。



中尊寺内の芭蕉像

中尊寺は、850年慈覚大師の開祖と伝えられ、月見坂に沿って本堂を中心に数多の堂が立ち並ぶが、やはり燦然と輝く「金色堂」が目立つ。「おくのほそ道」で芭蕉は「千歳の記念（かたみ）」と記している。

芭蕉が訪れた折にもすでに覆堂で保護されていた。

五月雨の降り残してや光堂

芭蕉

二度目の平泉訪問は平成30年（2018）6月30日。中尊寺以外の芭蕉ゆかりの地を見るためである。今回は、毛越寺・無量光院跡・高館・衣川橋を回った。

高館。義経の館で、ここで義経は最期を遂げた。入り口に小屋があり、入場券を売るおやじさんがいた。芭蕉の句碑や義経堂、更に北上川を越えた遠望に東稲山などを堪能して戻ってくると、このおやじさんの義経についての講釈が訥々と始まった。

曰く、『義経が平泉に戻るよう道を付けたのは、鎌倉殿（頼朝）ではないか。関所を易々と通したのもしかり。鎌倉殿の目的は義経を誅するにあらず、奥州藤原氏を滅ぼすにあり。泰衡もそれは承知していたが、どうすることも出来なかった。鎌倉の勢いは如何とも為しがたかった。』

更に、『義経が高館で自刃せず、北に落ち延びて生きたとするいわゆる北行説もあるが、これは異論。義経は幼少の頃、鞍馬山に預けられた後、平泉で10代から20代を源氏の御曹司として秀衡の庇護の下にあっ

た。頼朝の旗揚げに参じる前まで平泉で遇された。当時、藤原氏は奥州全体を支配しており、義経は北方にも自由に動く事は出来たし、各地に出向いていたであろう。当然、各地に義経を厚遇する跡は残ったであろう。義経が高館で不遇の死を遂げた後に、これらの足跡が生存北行説として言い伝えられたのではないか。』



高館からの遠望

更に更に、『高館は北上川を見下ろす場所にあるが、この場所がどこにあったか特定することは出来ない。北上川は荒ぶる川で常に氾濫しており、その都度改修されている。当時の高館はおそらく川の中に沈んでいるのではないかと思われる。』

このおやじさん、何者かは知らないが、ここに来た甲斐があったと思わせられる話であった。

夏草や兵（つはもの） どもが夢の跡 芭蕉

芭蕉はこの旅で義経の運命に心を寄せて止まない。

嵐山光三郎が、「夏草に光があり、光堂には闇がある。その両面の頽廢空虚の草むらを芭蕉はしかと見つめている。」との含みある指摘には共感する。 (パートナー 小松)

コラム「新聞スクラップ記事から」

霞ヶ浦環境科学センターで行っている、環境関連新聞記事の収集の中から、4月に関する話題性のあるものをご紹介します。平成 19 年 4 月常陽新聞記事に、行方市沖洲にかつてのポプラ並木再現の為に苗木を植樹したという記事がございました。以前はごみの山で人が寄り付かなかった所を地元住民が「かいつむりの会」という会を作って清掃活動し、綺麗にした所に、常陽新聞社が主体に進めている「霞ヶ浦緑のキャンペーン事業」によって植えられたものです。沖洲は水資源機構も、湖岸植生復元とワカサギ産卵環境の改善を目指して前浜を造成していますので、あれから 12 年、ポプラ並木の有るかつての美しい湖岸の再現が進んでいることでしょう。

(パートナー 古田)

パートナーに関する新任センター職員の紹介

| | | |
|------------|-------|-----------|
| 参事兼副センター長 | 皆川 桂一 | |
| 環境活動推進課 主査 | 中島 良浩 | 主事 大森 那月 |
| 嘱託 | 小川 達己 | 嘱託 久保谷 秀朗 |
| 臨時 | 大高 睦雄 | |

<編集後記>



編集に携わって 3 年目、現役の自分にも参加できる活動では？と、尾形編集長の下、会議に参加し、見習いながら拙い文面も任せていただきました。原稿の読みあわせでは、「植物」「魚類」そして『私の細道』などの、難しい用語や地名、旅のエピソード等、私にとっての学びの場となっています。

今は、紙面構成の重責を仰せつかり原稿と格闘しています。執筆者の意図を忠実に再現することを第一義としていますが、稚拙な編集技術、環境により歪んでしまうことがあるかもしれません。遠慮なくご意見をいただき長い目で見守っていただけたら幸いです。 (パートナー 栗原)